

「文字と言葉の魅力 ―古代の石刻拓本を見つめ直す―」

会 期；令和6年9月21日（土）～11月24日（日）

今回のバーチャル展示は、はっきりとしたテーマは設定してありませんが、後漢時代の石刻を中心に、企画展示ではあまり出展しない作品を交えて「ちょっと気になる拓本」を特集しました。

書体の変遷期の狭間で、「伝えたい言葉」「残したい記録」をどのように刻み付けるか。紙が普及しない時代に、紙よりも永く伝わる素材に文字を遺した人々の思いが、にじみ出てくるのが伝わります。

文字は、書道の世界では、「美しい」「整っている」「力強い」などの評価を受けますが、なにより「言葉」が詰まった器だと言えるのではないのでしょうか。お料理と同じように、器と味（意味）と心遣い（布置など）すべてを味わってみたいものです。

No.	資料番号	作品名	時代	制作年	サイズ（縦×横）
1	拓整―0036	毛公鼎銘文	西周時代・宣王期	—	54.0×67.3cm
2	拓整―0037	毛公鼎器拓	西周時代・宣王期	—	82.3×77.0cm
3	拓整―0040	開通褒斜道刻石	後漢	永平9年（66年）	130.8×263.2cm
4	13-0044	大吉昆弟買山地記	後漢	建初元年（76年）	78.1×121.1cm
5	拓整―0012	北海相景君碑	後漢	漢安2年（143年）	204.0×80.5cm
6	13-0153	元氏封龍山之頌	後漢	延熹7年（164年）	162.0×94.0cm
7	拓整―0004	校官碑	後漢	光和4年（181年）	120.0×79.4cm
8	13-0091	上尊号奏題	後漢	延康元書・黄初元刻（220年）	63.5×28.5cm
9	4A-4229	呂他墓表	後漢	弘始4年（402年）	67.8×37.0cm
10	拓整―0025	爨龍顏碑	南北朝・宋	大明2年（457年）	230.0×121.7cm
11	12-0123	瘞鶴銘	南北朝・梁	天監13年（514年）	177.0×164.0cm
12	拓整―0027	高貞碑	北魏	正光4年（523年）	196.5×89.5cm
13	5A-6002	高盛碑	南北朝・東魏	天平3年（536年）	132.0×99.5cm

\*作品はすべて（公財）日本習字教育財団 観峰館の所蔵です。